

あいさつで心の絆を結ぼう

船引小学校長 安生昌弘

ちょっと前のことですが、田村警察署の署長さんがあるコンクールの表彰状を学校に持って来てくださいました。その時に、「校庭で出会った子ども達が、あいさつしてくれましたよ。」と皆をほめていました。私も嬉しくなりました。あいさつ出来る人がとても増えましたよね。素晴らしいことです。これも児童会運営委員会のあいさつ運動のお陰ですね。どうもありがとう。でも、前にお昼の放送で言っていたように、まだ、あいさつを返せない人もいるし、町で会った大人の人にあいさつ出来ない人もいるのではないですか。私は「あいさつ」と聞くと、ある学校の1年生A君の事を思い出します。

ある小学校で私が2年生の担任をしていた時のことです。ある6月の朝、まだ小学生が誰も登校していない早い時間に、私は2年生の教室に向かって歩いていました。すると黄色い帽子をかぶった一人の1年生の男の子が、2年生教室の向こうの1年生教室に入っていくところでした。登校1番乗りです。遠くにいる私には気づいていないようでした。すると、その子は元気のいいかわいい声で「おはようございます」とあいさつしながら1年教室に入っていききました。「1年生の担任の先生が教室にいらっしゃるんだな」と思いました。私は1年生の担任の先生に話があったので、2年生教室を通り過ぎてさっき男の子が入っていった1年生教室へ行ってみました。すると、どうでしょう。その男の子がいるだけで、後は先生も誰もいません。「A君、おはよう。今、あいさつして教室に入って行ったよね。誰にあいさつしたの？」と聞いてみました。するとA君は「『教室に』かなあ。」と言うのです。「毎朝、あいさつするの?」「うん、毎朝だよ。」「偉いねえ。」「ありがとうございます。」誰もいない教室で二人で話をしました。

私は素晴らしいなあと思いました。A君は毎朝、誰かにではなく教室にあいさつしているのです。教室を大事に思っている気持ちが伝わってきました。もしかすると、先生か友達か誰かが教室にいても良いようにとあいさつしているのかも知れません。みんなを大切に思っている気持ちも伝わってきます。あいさつは「相手よりも先にする」「あいさつを返してもらうことを期待しない」この二つが大事なんだなああと1年生のA君に教えてもらったような気がしました。

「あいさつ」という言葉を活かして「あいさつ運動」というものがあります。「おはよう」「こんにちは」「さようなら」等のあいさつを「あ：明るく、い：いつでも、さ：先に、つ：続けて」しましょうという取組です。あいさつがもう一歩だなという人は、気持ちが良くなるような明るい声で、どんな時でも、相手より先にあいさつをしましょう。また、気持ちの良いあいさつが出来ている人は、あいさつの後に、言葉を続けてみましょう。例えば、横断歩



道で交通指導をしてくださっている方や遊び時間を見守ってくださっている方に「おはようございます。いつもありがとうございます。」とか「こんにちは。ありがとうございます。」とかです。これが「つ：続けて」ということなんです。あいさつで人と人との心のつながりが出来ていきます。「あいさつ運動」で、もっともっとあいさつが溢れる船引小学校や船引町、田村市にしていきたいです。